

平成 16 年度最終報告書

被助成者 特定非営利活動法人
シャプラニール＝市民による海外協力の会

コード 番号	04-A-290
-----------	----------

1. 事業名

バングラデシュ、ノルシンディ県における農村住民支援プログラム

2. 実施地域

バングラデシュ人民共和国

ノルシンディ県ベラボー郡、ライプーラ郡およびその隣接地域

3. 事業実施期間

2004 年 11 月 1 日～2005 年 10 月 31 日

4. 実施団体

特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会

PAPRI (Poverty Alleviation through Participatory Rural Initiatives ※)

※本事業におけるシャプラニールのパートナー団体

5. 報告の要約

本事業は、頻発する自然災害と貧困で知られるバングラデシュの農村部に住む社会経済的に困難な状況にある人々が、さまざまなグループ活動（ショミティ＝相互扶助グループなど）を通じて生活改善に必要な知識や技術を習得し、生活向上を自らの力で勝ち取るためのプロセスを側面的に支援するものである。

シャプラニールから独立した地元 NGO の PAPRI（パプリ、Poverty Alleviation through Participatory Rural Initiatives）を現場でのパートナーとして、多くのフィールドワーカーを雇用してソーシャルワークを実施した結果、男性 26、女性 186、計 212 のショミティ（メンバー総数 3,867 人）に対して貯金の機会を提供し、それぞれの能力に応じて成人識字学級や技術研修など、各種プログラムの提供が行われた。これによって住民自身が自らの地域の問題について話し合い、その解決のためにお互いに協力し、行動を起こすようになってきている。またこれだけでなく、思春期の少女だけのグループや社会的な差別を受けている人々（被差別カースト等）だけのグループ、あるいは夫を事故や病気でもなく、グループ活動にも参加できないような極貧状態におかれた寡婦や障がい者など、

個人を対象とした活動などを通して住民の多様なニーズに応えることもできた。こうした新しい活動の対象者も含めた期末時点の受益者総数は 5,573 人となっており、これは一世帯平均の人数である約 5 人強をかけた数、すなわち約 2 万 8,000 人以上がシなんらかの利益を得ている状況だといえる。今後は従来からのショミティ活動の推進とあわせ、新しいタイプの多様なグループや個人の対象者をどれだけ広げていけるかが大きな課題である。そのためにはより効果的な業務の展開方法を見極めていく必要がある。

6. 事業の背景

バングラデシュは一般に、自然災害と貧困にあえぐ国として知られる。縫製産業の進展によって 90 年代以降、着実に経済発展を続けてはきているものの、国民一人あたりの GDP はまだわずか 400 ドル程度しかなく、世界の最貧国の一つとしての地位は変わっていない。また現在、世界銀行やトランスペアレンシー・インターナショナル（各国政府の汚職度を独自の指標でランク付けしている国際 NGO）からは、「世界で最も汚職や腐敗が進んだ国」という評価を受けており、その前途はまさに多難である。

貧困とそれに起因するさまざまな問題は、農村部、都市部など所与の条件下において非常に多様な展開をみせるが、その中でも社会的にさまざまな制約を受ける立場の人々をめぐる状況は遅々として改善が進まない深刻な問題である。女性や経済的に困窮している人々、障がい者はもちろんのこと、ヒンドゥ教徒を中心としたエスニックマイノリティなど、ほとんど社会参加ができていない人々がまだまだ多く存在している。中でも寡婦をはじめとする女性の問題は大きい。イスラム教を国教と規定する、いわゆるイスラム教国であることから、バングラデシュの大半の人々、特に男性は、女性を「庇護されなければならない弱い存在」とする考え方を根深くもち、そのことが女性の行動を制限し、自由を奪うことにもつながっている。こうした思想的な側面も含めて、バングラデシュの女性が真の自立を目指していくためには、短期的でかつ「投下型」の援助ではとうてい実現は不可能である。そこでシャプラニールは、困難な状況にある住民自身が自主的に結成するショミティと呼ばれる相互扶助グループへの側面的支援を中心に、地道な取り組みを 20 年以上にわたって繰り返し続けてきた。

7. 事業の目的

農村に住む社会経済的に困難な状況にある人々が、各種のグループ活動を通じて生活改善に必要な知識や技術を習得し、生活向上を自らの力で勝ち取るためのプロセスに対して支援を行う。もって、住民自身が自らの地域の問題について話し合い、その解決のためお互いに協力し、行動を起こすことを目的とする。

8. 事業の実施運営体制

シャプラニールがショミティと呼ばれるグループへの支援を始めたのは 1980 年のことである。87 年からはすべての村事務所をシャプラニールが直接運営するダイレクト・オペレーション体制をとってきたが、バングラデシュ全体で NGO の存在が名実ともに充実してきたことから 99 年以降、各地域

ごとにいくつかの村事務所を束ねる形で、地元 NGO としてシャプラニールから分離独立してもらう作業を推し進めてきた。その結果、2005 年 3 月をもって、すべての村事務所の独立が完了し、現在は 3 つの活動地域にそれぞれ 1 つずつ、計 3 つの NGO が存在し、シャプラニールはそのすべてとパートナーシップ契約を結んで活動を実施している。

本事業の実施にあたっては、こうしたパートナー団体のうち、もっとも早く独立を果たし、安定した活動を展開している PAPRI (パプリ、Poverty Alleviation through Participatory Rural Initiatives) に現場の運営を任せる形をとった。PAPRI は現在、本部事務所の他、大きく 2 つの拠点を持しているが、本事業はそのうちのひとつ、アムラボ地域活動センターが管轄したものである。同センターには現在、所長と会計担当が 1 名ずついるほか、実際に各グループを担当してソーシャルワークを行うフィールドワーカーが 20 名、さらに門番やコック等を兼任しているサービススタッフが 3 名、配置されている。単身者は基本的に事務所内に寝泊りし、それ以外は近隣に部屋を借りて日々の業務に携わっている。また実際には、同センターの管内にさらに 2 つのユニット・オフィスと呼ばれる小規模事務所が設置されており、フィールドワーカーらはそのいずれかに配置される形できめ細かな住民への対応を行っている。

また、こうした現場での活動はすべて、PAPRI と取り交わしている契約に基づき、シャプラニールの日本人駐在員 (ダッカ事務所長) を総責任者として、ダッカ事務所の上級ローカルスタッフによって管理されている。特に活動の実施面においては PO (Program Officer) およびそれを補佐する PA (Program Assistant) が日常的にモニタリングを行っており、頻りに現場訪問を繰り返しながら問題解決と活動報告の作成などを担当している。

さらに、シャプラニール東京事務所には海外活動全体を統括する海外活動グループが存在し、本事業についてはこれを担当する 1 名が全体の調整にあたり、現地と連絡を密にして進行管理やアドバイスをを行うほか、必要に応じて現地出張を行い、活動状況モニタリングおよび現場との活動調整をしている。また評価や計画策定についても現地事務所と共同で実施している。

9. 事業内容および実施過程

本事業は、住民が主体となった継続的な生活向上への取り組みがあつて初めて成り立つものであり、その意味で自立支援というのは「住民のエンパワーメント (一人一人が自ら生活改善を進めていけるような「力」を育てるという意味)」にはかならないといえよう。ここでいうエンパワーメントは単なる経済的な向上に限らず、村人が貧困状態から抜け出すことができる能力育成や社会環境・社会基盤の整備を含む広範な概念である。シャプラニールがすべての活動の基盤においているショミティ (= 相互扶助グループ) は、このエンパワーメントを実現するための器である。人々が生活改善を持続的に実現するためには、一人一人の能力をつけることと、社会に対して継続的に働きかける主体の形成が必要である。従って、ショミティは住民の能力育成および社会参加の鍵となる。成人識字学級や各種のグループ研修といったプログラムはすべてショミティを対象に行われるものであり、活動を開始するにあたっては、まずショミティが結成されなければならない。

前述したフィールドワーカーは、割り当てられた村 (この場合は自然村である「グラム」という単位

を指す) を訪問し、シャプラニールおよびそのパートナー団体が設定した受益者の基準をもとにしながらショミティの結成を村人に促していく。受益者の基準とはすなわち、同程度に貧しい人々(土地所有が1エーカー未満であること、定職についていないこと、など)ということであり、1つのショミティはおよそ15人から25人ほどを目処に男女別々に作られる。各ショミティは結成後、毎週1回の定期ミーティングと、その際の少額の貯金を積み重ねていくことになる。以前はこの貯金を共同貯金とし、グループで管理することが前提となっていたが、現在は村人のニーズにあわせる形で、個人での貯金として私たちNGO側でその管理を行い、同時に貯蓄額に応じて少額の個人ローンが借りられるシステム(貯蓄ショミティ)が普及している。

また、思春期の少女だけのグループ(アドルセントグループ)や社会的な差別を受けている人々(被差別カースト等)だけのグループなど、近年はグループの属性も多様化してきているほか、夫を事故や病気でなくし、グループ活動にも参加できないような極貧状態におかれた寡婦や障がい者など、個人を対象とした活動も開始し、各地域における様々な問題に幅広く対応するようになってきている。なお、以上の活動を日常的に支えているフィールドワーカーは、一人で15から30程度のグループや個人を担当し、イスラム教の安息日である金曜日を除く毎日、早朝から時には夜になるまでソーシャルワークを展開している。

10. 事業の成果

本事業期間中における各活動の成果は次のとおり。

① ショミティ育成

男性26グループ、女性186グループ、計212のショミティに対して貯金の機会を提供し、それぞれの能力に応じた各種プログラムの提供が行われた。期末時点のメンバー総数は男性389人、女性3,478人、計3,867人となっており、男性に比して女性の受益者が圧倒的に多い状況になっている。これは事業の背景でも述べたとおり、女性が抱える問題により多くの力を割くためである。また、ショミティメンバーは原則一世帯から一人であるため、直接のメンバー数に一世帯平均の人数である約5人強をかけた数、すなわち約2万人がショミティ活動によってなんらかの利益を得ているといえる。

② 生活改善成人識字学級の実施

男性1、女性3、計4つのセンターで、計83人が文字の読み書きを8ヵ月間にわたって勉強することができた。この間、週に6日間、毎日2時間から3時間の授業を受けるというハードスケジュールにもかかわらず、平均の出席率は92%と高率を維持した。従来の識字学級はショミティメンバーのみを対象として開かれていたが、識字小屋(センター)の建設や運営にはPAPRIが村のエリート層も含めて広く呼びかける形で結成された農村開発フォーラム(後述)が中心になってあたるなど、地域の人に開かれた識字教室を目指して実施した。単に文字の読み書きだけでなく、保健衛生や栄養について、あるいは収入の増やし方について等、生活向上に必要な実践的な知識も学ぶ。識字学級終了後は、学んだ文字や知識を忘れないようエッセイ

コンテスト（作文コンテスト）や PAPRI 新聞の発行、図書館活動などを行った。なお、PAPRI 新聞は本期中に 322 部を発行し、多くの読者を得た。

③ ショミティメンバーを含む村人への啓蒙活動

教育の大切をショミティメンバーだけでなく、より多くの村人に訴えるため、国際識字デーにちなみ、識字学級の受講生らが参加して大きなデモ行進を行った。また、後述する児童補習教育の参加児童らも別途、大規模な集会をもち、子どもも大人も等しく教育を受けることの大切さを広く伝えることができた。



④ グループメンバーへの研修活動

メンバー一人一人がさまざまな知識や生活改善に役立つ技術を身につけられるように、次のような研修をそれぞれ実施した。

- 最貧困グループ： 牛の肥育（10人参加）
手工芸品（10人参加）
家禽飼育（10人参加）
野菜耕作（10人参加）
- 少女グループ： 家庭調理（5人参加）
リプロダクティブヘルス（10人参加）
家政（5人参加）
絞り染め（5人参加）
- 有機農業グループ： 種子の保存（26人参加）
品種改良（26人参加）
- 障がい者： 裁縫（3人参加）
竹細工（5人参加）
紙袋製作（5人参加）



⑤ 児童教育活動の実施

バングラデシュ政府は現在、全児童が初等教育をきちんと受けられるようにする取り組みを進めてきており、ハイスクールレベルの奨学金も用意するなど、積極的に学校教育環境の改善に努力している。農村部の人々も教育の重要性をよく意識するようになってきており、以前に比べてかなりの子どもが公立小学校に通うようになった。しかしながら、まだまだ貧弱な学校施設や授業の画一的な進め方についていけず、途中でドロップアウトしてしまう子どももまた、多いのが実情である。そこで一度ドロップアウトした児童も含め、子どもたちが公立小学校で

の勉強を継続できるようにすることを目的に、独自の補習学級を開き、学校の始まる前や後の時間を利用して勉強のためのクラスを行っている。本期中には4つのクラス（センター）で計181人（男子83人、女子89人）の生徒が参加した。各クラスを担当する教師のトレーニングはもちろん、教師の間でのミーティングおよび保護者のミーティングが定期的に行われ、保護者が出席を促したこともあって生徒の出席率は95%と非常に良かった。

⑥ その他

先述したショミティに加え、以下のような多様なグループあるいは個人を対象とした活動が行われた。

・ 最貧困グループ

もとよりショミティ活動は貧困層に属する人々が参加するものであるが、夫を事故や病気で失った寡婦や、なんらかの理由で一時的に極貧状態に陥っている人々などは、毎週定期的なミーティングと貯金を活動の基本とする既存のショミティ活動にすら参加できないというのが実情であった。そこでPAPRIは数年前からそうした最貧困層と呼ばれる人々の社会・経済状態をよく知るために村単位で調査を行ってきた。予想通り、彼・彼女らは今まで、毎週のミーティングへの出席や定期的な貯金ができなかったことなどから、シャプラニールやPAPRIをはじめ、どのNGOのメンバーにもなったことがなく、非常に苦しい生活が続いていることがわかった。その後、定期的にフィールドワーカーがそういった家庭を訪問し、彼らの置かれている状況を理解するとともに、彼らとの関係作りを始めた。こうしたことの積み重ねで現在、19のグループ330人のメンバー（すべて女性）が収入向上のための技術研修を受けたり、基礎的な保健衛生について学んだりしている。また、技術研修を終了したメンバーに対して、通常よりも低利のローンを融資し始めた。

・ 障がいのある人々

これまでの調査から、活動地域内に251人の障がいを持つ人々の存在がわかっている。本事業期間中は、これらの人々とコミュニケーションをとりながら裁縫、竹細工、紙袋製作などの技術研修を行った。また、障がい者へのケアを専門に行っているCDDという他のNGOに専門知識を学ぶための研修の機会を提供してもらい、そこにフィールドワーカーを派遣したことから、何かあれば常にアドバイスを受けられる体制作りができた。例えば口蓋裂の患者がいる。村の人々は、これまでこの障がいは治らないものと考えてきたが、PAPRIの働きかけによってそうした間違った知識を改め、CDDに紹介してもらった医者ボランティアで手術をしてもらい、見事に障がいを克服する事例を得ることができた。このように地域住民の理解が欠かさないことから、地域の有力者に対してのワークショップやキャンペーン活動も積極的に行った。

- ・ 少女グループ

ちょうど思春期にあたる少女あるいは少年のみで構成されるグループのことで、英語ではアドルセントグループと呼んでいる。活動範囲内に居住する該当年齢の少女の数を調査し、これまでに26のグループが結成され372人の少女たち（1グループ、12人のみが少年）が活動を始めている。彼女



たちに対してはリプロダクティブヘルスに関する研修の他、調理や服飾、養鶏などの技術研修を行う他、自分たちで貯金を集め始めるグループも現れてきている。また、文化祭や運動会などのイベントなども企画され、早婚やダウリー（持参金）など、自分たちが直面している問題を地域の人々に広く訴える機会ももつことができた。

- ・ 労働をしている子ども

本事業の対象地域には、露店や食料雑貨店、農作物の生産と加工、リキシャ（三輪の自転車、人や荷物を運ぶ）引き、行商、靴磨き、家内労働など、様々な業種で働く子どもたちが大勢いる。仕事のうちには危険で健康に害のあるものもある。こうした働く子どもたちをワーキングチルドレンと呼んでいるが、本事業の対象地域には100人近くが存在することが分かっている。PAPRIではこれらの子どもたちの打ち、20人を店主の了解を得てグループにまとめ、簡単な勉強とレクリエーションの時間がとれる機会を提供している。子どもたちの仕事が終わる時間である夜8時から10時くらいを目処に、2時間以上の時間を使ってクラスは行われている。このプログラムの運営のため、バザール委員会（商店主の集まり）がクラスのための場所を提供するなど、積極的に協力する体制が作られている。現在このグループの活動状況を観察しつつ、今後同様の活動を他地域に広げるかどうかを検討している。

- ・ 低位カーストの人々

これまでの調査で、3つの被差別集落に33世帯、142人の低位カーストの人々が住んでいることがわかっている。これらの人々は他の村人たちとコンタクトをとることに大きなためらいを感じているため、信頼関係の構築には時間がかかるが、すでに一部の住民はショミティ活動を開始することができた。

- ・ 有機農業グループ

種の採取と保存や品種改良についての技術研修を行ったほか、新しい耕作技術の習得や対象地域の地質調査をサポートした。また、メンバー同士の経験を分かち合う

ためのミーティングを積極的に持つようにするなど、現在8つの村で10のグループ、計71人がメンバーとして活動している。

- ・ 農村開発フォーラム

フォーラムをつくる村の選定を行い、村の指導者層から貧困層まで、幅広く地域の実情を反映できるように配慮してフォーラム結成を呼びかけた結果、現在8つのフォーラムで住民261人(うち、男性141人、女性120人)が参加するまでになってきている。各村でのフォーラムは、一種のコミュニティセンターとして機能的に活動しており、特に現在、PAPRIも力を入れつつある最貧困層や障がい者に対して村としてどう対処していくかなどについて関心が高まってきている。

11. 今後の課題

本事業の要であるショミティ活動は、これまで長い間にわたって積み上げてきた実績によって村人から非常に信頼されるシステムとして定着している。それは参加する村人の数にも現れている。しかしながら、そうした既存のショミティでは必ずしもカバーすることのできてこなかった最貧困層への対応についてはまだ活動が緒に就いたばかりであり、今後前項でも述べた新しいタイプの多様なグループや個人の対象者をどれだけ広げていけるかが大きな課題の一つとなっている。現状でもショミティメンバー3,867人に対し、こうした新規の受益者が計1,706人という規模にまでなっているが、より業務の効率化を図りつつ、効果的な活動展開の方法を模索する必要がある。

以上